

招 集 期 日	令 和 2 年 10 月 14 日 (水)		会 議 の 場 所	学 校 給 食 セ ン タ ー
会 議 の 時 刻 及 び 宣 告 者	開 会 の 時 刻	午 後 1 時 30 分	開 会 者	教 育 長
	閉 会 の 時 刻	午 後 2 時 25 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	平 野 博 之 委 員	出 席	
柿 沼 拓 弥 教 育 長 職 務 代 理 者	出 席	岩 崎 智 子 委 員	出 席	
高 瀬 賢 一 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者	川 島 学 校 教 育 部 長	寺 崎 生 涯 学 習 部 長	須 永 教 育 総 務 課 長	大 久 保 学 校 教 育 課 長
	小 島 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	今 成 生 涯 学 習 課 長	佐 藤 ス ポ ー ツ 振 興 課 長	根 岸 図 書 館 長 兼 郷 土 資 料 館 長
書 記 名	教 育 総 務 課 総 務 係 横 山			傍 聴 人 2 名
会 議 事 件 名	て ん 末			
開 会	教 育 長	10 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会		
日 程 第 1 再 任 委 員 の 紹 介	教 育 長	<p>教 育 委 員 会 の 会 議 は 公 開 が 原 則 と な っ て い る が、人 事 に 関 す る 案 件 等 に つ い て 出 席 委 員 の 3 分 の 2 以 上 の 多 数 で 議 決 し た 場 合 は 非 公 開 と す る こ と が で き る。</p> <p>本 日 の 案 件 の 中 で、非 公 開 と す べ き 案 件 は な い た め、全 て 公 開 と し て よ ろ し い か。</p> <p>異 議 な し の 声 あ り</p>		
	教 育 長	<p>去 る 9 月 30 日 を も っ て、任 期 が 満 了 し た 高 瀬 委 員 は、9 月 28 日 に 市 議 会 の 同 意 を 得 て、10 月 1 日 付 け で 市 長 か ら 任 命 さ れ、再 任 と な っ た。</p> <p>(高 瀬 委 員 あ い さ つ)</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 前回会議録の承認</p> <p>日程第3 報告事項1 令和2年9月定例市議会提出(教育委員会関係)議案等について</p>	<p>教育長</p> <p>教育長</p> <p>教育長</p> <p>学校教育部長</p>	<p>9月定例教育委員会の会議録について諮った</p> <p>異議なしの声あり</p> <p>前回会議録は、承認された旨宣した。</p> <p>報告事項1について、学校教育部長から説明を求めた。</p> <p>斉藤隆議員から、「令和元年度羽生市一般会計歳入歳出決算歳出」について議案質疑があった。</p> <p>「学校適正規模審議会について」は、委員報酬を当初予算で計上しなかった理由は、学校の適正規模・適正配置に関する方針を定めるため当初の予定を前倒しして審議を行うこととなったためであること、設置時期・目的・審議内容等について及び同審議会での協議により中学校プール施設を令和2年度に廃止したことを説明した。</p> <p>「学力アップテストの実施結果について」は、令和元年度は、小学校では全国平均を超えることができた学年・科目があったこと、中学校では全国平均を下回っていることを説明した。</p> <p>「児童生徒側わん症検査について」は、側わん症の疑いがある者の割合は、小学校5年生が0.9%、中学1年生が3.92%となり、整形外科等の受診を勧めていること、ここ数年の結果では、中学生女子の割合が多い傾向があることを説明した。</p> <p>「発達障がい等早期支援対策事業について」は、各小・中学校巡回相談は、臨床心理巡回相談、WISC検査、特別支援教育巡回支援事業の3つの事業を実施していること及び事業効果を説明した。</p> <p>「図書購入費について」は、蔵書冊数を増やすだけでなく、図書の「質」を高めていくことも重要であると認識しており、古くなった図書を廃棄して図書の入れ替えを進め、全校での図書標準達成を目指す旨、答弁した。</p> <p>「地域人材の学校支援事業についての見解」については、小学校、中学校共に学校運営協議会、コミュニティ・スク</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>ールが組織された。今後ますます地域と連携が重要となるため、子どもたちの安心・安全の確保や教育活動の充実を図るため、地域への協力を依頼するよう学校へ働きかけていく旨、答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、「令和元年度羽生市一般会計歳入歳出決算 歳出」について議案質疑があった。</p> <p>「電気代不用額が多額となった理由」については、3月に学校が臨時休業となった影響等により、電気使用量が想定より減少したため、多額の不用額が発生したと答弁した。</p> <p>斉藤万紀子議員から、「令和元年度羽生市一般会計歳入歳出決算 歳出」について議案質疑があった。</p> <p>「適応指導教室相談事業の推進について」は、令和元年度に在籍していた5名の内、3名は、学校へ復帰したという成果があったこと、体験活動を通して、子どもたちに人との関わりを持たせるなど、学習内容の工夫に努めている旨、答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、「令和2年度羽生市一般会計補正予算(第6号) 歳出」について議案質疑があった。</p> <p>「情報活用能力育成研究モデル校の指定について」は、羽生市教育委員会が埼玉県教育委員会から委嘱を受け、須影小学校と南中学校を研究モデル校として指定し、今後研究を進めていくと答弁した。</p> <p>斉藤隆議員から、「財産の取得について」、議案質疑があった。</p> <p>納品される児童生徒用コンピュータの仕様として、機器に搭載されるOSや性能、導入するソフトウェア、納品時期及び納入方法、補償内容について説明した。</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>野中一城議員から、「学校施設における安全点検等について」、一般質問があった。</p> <p>「安全点検の実施状況と結果について」は、法令に基づき各所を点検し、不具合の解消に努めていること、「昇降機や防火シャッター(危害防止装置等設置)の現状と使用に関する指導等について」は、昇降機の点検状況と、防火シャッターの危害防止装置の設置状況を説明し、今後も児童生徒等の安全確保を第一に考え、施設の適切な維持管理と安全指導を行っていく旨、答弁した。</p> <p>齊藤隆議員から、「新型コロナウイルス感染症に対する学校の衛生管理について」、一般質問があった。</p> <p>「学びの保障についての教育委員会の見解について」は、学習支援員の追加配備やGIGAスクール構想に基づく環境整備を進める等、人的・物的な支援体制を整え、子どもの学びを最大限に確保していくと答弁した。「教育委員会及び各小中学校における総合的な保健管理体制の構築について」は、文部科学省の衛生管理マニュアル、埼玉県のガイドラインに基づいて学校と羽生市及び専門機関と連携した保健管理体制を構築し、感染拡大防止策を適切に実施できるようマニュアル化・フローチャート図式化したものを市内各小・中学校に周知している旨、答弁した。「児童生徒の人権を最大限に守り差別・偏見・いじめ・中傷誹謗など起こさせないための取組について」は、各学校において、文部科学大臣のメッセージを配付することをはじめとして、新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識をもとに、児童生徒の発達の段階に応じて適切に指導するとともに、人権教育の指導の充実を通して、感染者等に対する偏見や差別、いじめが生じることがないように取り組んでいくと答弁した。「学校生活の中で『新しい生活様式を実施する』具体的な取組について」は、健康管理の徹底と、教育活動の上で、フェイスシールドを活用したり、紙やホワイトボードに自分の考えを書いたりするなど、「3つの密」を回避できるよう工夫して取り組んでいる旨、答弁した。「教職員の新型コロナウイルス感染症に対する適切な認識・児童生徒への指導のあり</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>方などの取組について」は、児童生徒が新型コロナウイルス感染症に対して適切に認識し、感染のリスクを自ら判断して正しく行動することができるよう発達段階に応じて適宜指導を行っている」と答弁した。「新型コロナウイルス感染症の感染防止について保護者の理解と協力のための啓発活動及び学校の情報発信の取組について」は、羽生市新型コロナウイルス感染症対策本部会議や学校医及び校長会との連携を図り、国や県からの最新情報を確認しながら、子どもたちの安心・安全を守るため、新型コロナウイルス感染症の防止について引き続き取り組んでいく」と答弁した。</p> <p>齊藤隆議員から、「学校教育の情報化の推進について」、一般質問があった。</p> <p>「個々の児童生徒の能力特性等に応じた教育のかたちについて」は、1人1台の端末を活用し、一人一人の学習状況を可視化したり、特別な支援を必要とする子供たちによりきめ細やかな対応を行ったりしながら、児童生徒一人一人の能力特性等に応じた教育を推進していく」と答弁した。「『双方向性の教育』のあり方について」は、羽生南小学校においてオリンピック選手と遠隔でつながり、交流しながらキャリア教育の実践を行っている事例を示し、各学校に対し、有効的な「双方向性の教育」による授業改善に向けた指導を進めている旨、答弁した。「情報通信に係わる教員の能力向上へ向けた取組について」は、文部科学省から平成27、28年度に「ICTを活用した教育推進自治体応援事業」の研究委嘱を受けており、市内でも活用のあり方や指導の成果や課題を明らかにし、市内各校へ広めてきた旨、答弁した。「『多様な方法の学習』についての見解について」は、デジタル教材を活用した学習と実体験を融合させることで学習の選択肢が増え、「多様な方法の学習」が可能になると考えている旨、答弁した。「全ての児童生徒が学校教育の情報化の恵沢を享受するための取組について」は、児童生徒の学びを保証するため、自宅にインターネット接続環境のない家庭にモバイルWi-Fiルーターを貸与することを検討しているところであり、今後も教育の機会均等が図られるよう、環境を整えていく」と答弁した。</p> <p>「情報技術を活用した学校事務の効率化及び児童生徒に対する</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>教育の充実への取組について」は、羽生市では、平成 22 年度から統合型校務支援システムを導入したことにより、校務を効率的に遂行できるようになったことで、教師が児童生徒と向き合う時間を確保でき、教育の充実、向上につなげることができるようになっていたことを答弁した。「児童生徒の個人情報の適正な取り扱い及びサイバーセキュリティの確保に対する取組について」は、ファイアーウォールやフィルタリングの設定によるインターネットのアクセス制限、校務データのバックアップの保管、各学校が作成した情報セキュリティ基本方針・対策基準に基づく教職員の研修等を実施していくと答弁した。「児童生徒の健康、生活に及ぼす影響を最小限に抑えるための取組について」は、ゲーム依存、ネット依存の未然防止やネット犯罪に巻き込まれることのないよう、研修等を通じて教職員、保護者等への啓発を行っていくと答弁した。「『羽生市学校教育情報化推進計画』の策定について」は、羽生市教育委員会では、一早く作成に向けて取り組み始めたところであり、国や県の計画が策定されたのち、それらとの整合性を図りながら市の実態に沿った形で策定する旨、答弁した。</p> <p>齊藤万紀子議員から、「奨学金制度の拡充と『はにゅう子ども若者応援基金』の設立について」、一般質問があった。</p> <p>「奨学金制度の拡充」については、本市で給与している奨学金制度について、育英資金は、高等学校に就学する者に対して月額 1 万円を卒業まで給与するもので、毎年 10 名を募集、奨学資金は、大学等に就学する者に対して月額 2 万円を卒業まで給与するもので、毎年 2 名を募集していることを説明し、他市と比較しても充実した制度となっていることから、現行の奨学金制度を維持すると答弁した。「はにゅう子ども若者応援基金の設立」については、既存の入学準備金貸付制度は、進学の意欲を有する者で、経済的理由によって進学が困難な者に、高校は 40 万円、大学は 80 万円を無利子で貸付する制度で、他市に例を見ない金額である。また、青少年の健全な発育と素質の向上を図るための「羽生市教育振興基金」があることから、新たに「はにゅう子ども若者応援基金」を創立する考えは無く、現在実施</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>している制度の周知を図り、次世代を担う子どもたちの成長を応援し続けていく旨、答弁した。</p> <p>中島直樹議員から、「GIGAスクール構想について」、一般質問があった。</p> <p>「羽生市個人情報保護条例との整合性」については、羽生市個人情報保護条例の規定に基づき、コンピュータシステムの結合について羽生市個人情報保護審議会に付議することにより、同条例との整合性が図れることを説明した。「児童生徒の支援体制について」は、平成27年度から2年間、文部科学省の委託事業であるICTを活用した教育推進自治体応援事業に取り組み、須影小学校を中心として、当時タブレット端末の導入が完了していた岩瀬小学校や村君小学校もモデル検証校として研究を進めてきた。さらに、羽生市フューチャースクール推進委員会において、研究の成果が共有され、現在も各学校で児童生徒への指導に活用されている旨、答弁した。</p> <p>増田敏雄議員から、「学校再開後の新型コロナウイルス対策について」、一般質問があった。</p> <p>「感染対策と授業の両立について」及び「児童・生徒の健康管理について」は、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき、感染症対策を講じて授業を行うとともに、児童生徒の健康管理の徹底を図っていることを説明した。「体育実技、運動部活動での留意点について」は、羽生市教育委員会から示した「学校再開後の体育授業の留意点」に基づき、体育の授業を実施していること、部活動については、6月22日から段階的に再開し、7月18日より市を越えての対外試合も可能とするとともに、引き続き十分な感染症対策を講じながら部活動に取り組んでいる旨、答弁した。「休業中の家庭学習の評価について」は、臨時休業中は、各学校が様々な家庭学習を出していたが、評価については学校の実態に応じた状況となっている。再開後は、学校ごとに教育課程を組み直すことで、学習の遅れを補完し、きちんと評価ができる対策を講じている旨、答弁した。「学習内容が終わらない場</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>合について」は、夏季休業日と冬季休業日の短縮を行い、授業時数の確保をしたことにより、年度内に学習内容を終えることができるの見込んでいると説明した。「心のケア虐待防止策については」、児童虐待等のリスクが高まることを受け、子育て支援課と連携し、「子どもの見守り強化アクションプラン」を実施した旨、答弁した。「トイレの清掃活動について」は、清掃時はマスクを着用し、私語をせず、清掃終了時には必ず石鹸を使用して手洗いをを行うよう指導していると説明した。「ゴミ箱のふた付き化について」は、用途に応じてふた付きのゴミ箱を使用していること、その後の手洗い及び消毒を徹底するよう指導していることを説明した。「水道の出しっぱなし対策について」は、現在は特に行っていないが、今後も引き続き、こまめな手洗い、うがい、消毒等、徹底した衛生管理の下、感染症拡大防止に努めていく旨、答弁した。</p> <p>増田敏雄議員から、「公共施設の統廃合における既存の小学校・中学校に代わる義務教育学校の設置計画について」、一般質問があった。</p> <p>現在、羽生市立学校適正規模審議会を立ち上げ、「羽生市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針案」の作成について諮問し、義務教育学校の設置を含めた将来の小中学校のあり方について審議を行っているところである。義務教育学校については、中1ギャップの軽減や一貫した指導方法に基づく指導、異年齢交流による社会性や協調性の育成などのメリットがあるため、今後も審議の行方を見守りつつ、研究を進めていく旨、答弁した。</p> <p>柳沢暁議員から、「新型コロナ禍での学校の感染症対策、少人数学級について」、一般質問があった。</p> <p>「学校での感染症対策、身体的距離の確保について」は、文部科学省の「衛生管理マニュアル」等に基づき、各学校の実態及び場面に応じて感染症対策を講じ、児童生徒の間隔を1メートルを目安に、かつ学級内で最大限の間隔をとるよう指導していることを説明した。「少人数学級の見解」については、子どもたち一人一人に行き届いた支援ができること、教職員の事務</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 令和2年度高校生インストラクター講座の中止について</p> <p>報告事項3 第37回「彩の国21世紀郷土かるた」羽生市大会の中止について</p>	<p>教育長</p> <p>生涯学習課長</p> <p>生涯学習課長</p> <p>教育長</p>	<p>にかかる負担を軽減できること、新型コロナウイルス感染症対策として身体的距離がとりやすくなること等、利点があると認識しており、算数科等において、ティームティーチングや習熟度別少人数学級での指導に取り組んでいると答弁した。「羽生市から国や県への要望について」は、通常学級の少人数化について、全国市長会、全国市町村教育委員会連合会や全国都市教育長協議会及び校長会で要望を継続している旨、答弁した。</p> <p>報告事項2及び3について、生涯学習課長から説明を求めた。</p> <p>高校生インストラクター講座は、市内の高校に通う学生が、地域の方々を対象とした講座を主体的に企画・立案し、講師を務めることによって、地域社会への積極的な参画意識の醸成を図ることを目的として毎年実施している。今年度の開催については、各学校の担当教諭と協議を行った結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加者及び生徒の安全を最優先に考え、やむ無く中止することとした。</p> <p>本大会は、子どもたちが伝統的な遊びである「かるた」を行うことによって、仲間づくりを図るとともに、ふるさとの文化に慣れ親しむことを目的として毎年開催している。9月10日に開催された第2回実行委員会において、今大会の実施について協議を行った結果、競技の性質上新型コロナウイルス感染防止策をとることが難しいことから、参加児童と大会運営に関わる保護者等の安全を最優先に考え、やむ無く中止することとした。</p> <p>報告事項4及び5について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項4 ふるさと講座「利根川と文学～小説と俳句など～」の開催について	図書館長兼郷土資料館長	参加者に郷土の歴史や文化をより知っていただくため、利根川に関する文学をテーマとして、12月6日に図書館にて開催する。講演では、田山花袋や太田玉茗、宮澤章二など羽生にゆかりのある文人の小説や俳句など、様々な作品を通じて、当時の暮らしや風土を学んでいく。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、前後左右2メートルの間隔を空けて座席を設け、定員を15名とする。
報告事項5 リサイクルフェアの中止について	図書館長兼郷土資料館長	図書館において不用となり除籍された本や、市民から提供された本などを有効活用するため、毎年「リサイクルフェア」を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から市民の安全を最優先するため、今年度は中止とする。なお、今回提供予定であったリサイクル資料については、来年度に持ち越すこととする。
報告事項6 その他	教育長	その他の報告について説明を求めた。
	図書館長兼郷土資料館長	図書館では、子どもたちの読書の世界を広げようと、お楽しみ袋の第二弾として10月5日から豆本くじ引き大会を開催した。その企画が朝日新聞に掲載されたため、報告する。折り紙でできた豆本を一つ選びカウンターへ持っていくと、スタッフからお勧めの一冊を借りることができる。本の中にはオリジナルしおりが入っており、当たりが出たらキャラクターグッズをプレゼントするものである。また、この記事をきっかけに、10月7日にテレビ埼玉の取材があり、同日夕方のニュースで放映された。なお、豆本は100冊用意し、テレビ放映後22冊増やしたが、全て子どもたちに提供することができた。
	教育長	報告事項について、質問・意見を求めた。

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>豆本くじは、大変反響があり、子どもたちはもちろん大人にとっても興味深い企画であった。是非、引き続き工夫しながら子どもたちが本好きになるように、また、羽生市民にとっても有益な図書館になるよう、取組をお願いしたい。</p>
	岩崎委員	<p>コロナ禍の中で、利用者や本の貸出の状況はどのようなか。また、本のクリーニング等、感染防止対策はどのように行っているか。</p>
	図書館長兼郷土資料館長	<p>現在の開館時間は10時から18時までであり、通常より1時間遅れての開館としている。ウイルスはプラスチック面では72時間、紙では24時間生きているという報告があるため、図書館の本はフィルムでコーティングされていることから、消毒後72時間、ウイルスが消えるまで放置している。消毒が済んだ本は、開館時間を遅らせた1時間の間で配架をしている。来館者については、昨年度に比べると半数に留まっていたが、9月に入り読書の秋ということで、1日平均して230人程増えた。9月末の土日は400人を超える日もあった。様々な取組が功を奏してか、市外からの利用者もあり、利用カードを作る方も増えている。</p>
	柿沼委員	<p>発達障がい等早期支援対策事業に対する市議会での質問に関連して、先日、岩瀬小学校と南中学校を訪問し、先生方が一生懸命頑張っている姿があり、良い学校運営をされていると思った。その中で、発達障がいの児童について、臨床心理士からアドバイスをもらい対応しているという話があった。臨床心理士の巡回が定期的に多くあると良いが、費用もかかるであろうから、どのような体制で事業を推進しているか伺いたい。</p>
	学校教育課長	<p>臨床心理士の巡回は、現在年間42回、1校あたり3回できるよう予算を確保している。各学校を年1回巡回し、その他希望のある学校に訪問し、児童生徒の様子を見てもらっている。学校によっては、もう少し回数を増やしたいという要望もあるが、予算の範囲内で実施している状況である。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>臨床心理士の人数は、ここ数年で1名から2名に増やしている。不十分なところは、県のスクールソーシャルワーカーと、2名の市のスクールソーシャルワーカー、適応指導教室所長棟が連携し、学校の負担を和らげ、しっかりと児童生徒一人一人の対応ができるよう月1回の情報交換を行い対応している状況である。本日、羽生南小学校の支援訪問を行ったが、特別支援学級では、担任が児童一人一人の学びの状況や適性に応じた指導をしている場面を見ることができた。</p>
	高瀬委員	<p>市議会一般質問の「学校教育の情報化の推進について」の答弁中、児童生徒の学びを保障するため、インターネット接続環境の無い家庭にモバイルWi-Fiルーターを貸与するということであったが、対象となる家庭数は、把握しているのか。</p>
	教育総務課長	<p>家庭のインターネット接続環境の有無について、調査を行い把握している。結果は、小学校8.9%、中学校7.1%の家庭で接続環境がない結果であった。ただし、これはアンケートに回答があった件数に対する割合であるため、無回答者の中にも接続環境の無い家庭がある程度あると見込み、十分な台数のモバイルWi-Fiルーターの購入準備を進めている。</p>
	平野委員	<p>市議会一般質問の「学校再開後の新型コロナウイルス対策について」の「学習内容が終わらない場合」に関連して、小学校は中学校と連携した対応の方法があると聞いている。しかし、中学3年生で未修了があった場合、高校には持ち越せないと思うが、どのような対応を想定しているか。</p>
	学校教育課長	<p>文部科学省より、最終学年は、なるべく年度内に学習内容を終わらせるように、また、定められた授業時数に満たなくても、学習指導要領の内容を概ね網羅していれば課程を修了したものとみなす旨の通知が来ているため、小学6年生、中学3年生に関しては、年度内で終わらせるようにしている。複数年にわたる教育課程の編成による対応は、最終学年を除いた学年を想定している。</p>

会議事件名	て ん 末	
	岩崎委員	<p>新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の、中学3年生の受験への影響が心配である。毎年、インフルエンザでの学級閉鎖も少なからずあるので、そういった不慮の事態を想定し先生方が準備をしているのか。</p>
	学校教育課長	<p>臨時休業があった事態を鑑み、県立高校では、受験に関わる出題範囲等が配慮される旨、埼玉県教育委員会から示されている。私立学校についても、同様の対応がとられると考えている。このようなことを踏まえ、各中学校では受験に向けた見通しを持って、教育課程を組んでいるところである。また、再び長期に渡る臨時休業があった場合、県からの通知等に従い、対策を取っていきたい。</p>
	教育長	<p>羽生市では、学校を再開した6月1日から学校給食を提供するなど、授業時数を確保については順調に進んでいる状況である。しかしながら、今後、新型コロナウイルスの感染者が教職員や児童生徒から発生した時には、然るべき対応を取らなければならないが、そのような事態も想定して各学校が余裕を持って教育課程を編成しているとのことである。冬季休業も短くなるが、それでも厳しい状況になった時には、土曜授業の実施や行事の削減などで対応していかねばならないと考えている。少なくとも、小学6年生と中学3年生に関しては、しっかりと学習を終えるよう学校に要請しているところである。各学校の状況を把握しながら羽生市教育委員会としてもサポートしていきたい。</p>
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
教育長	<p>次回教育委員会日程について、事務局より説明の旨。</p>	

